

生きた興味と主題による遊戯

東京女高師幼稚園 岡崎修子

○ 生きた興味による遊戯

毎朝「おはようございます」と段々に元氣な顔がそろつてきますと、必ずともいつてよいように「今日お遊戯する？」ときくお子さんが一人はあります。

それが特にお遊戯の好きな子ときまつたわけではなく、大して關心を持つていないような顔をしている子、時には一緒にするのをこばむような子たちまで、其の顔ぶれが日により色々で、時々「おやつ」と思うことがあります。

「お遊戯するの？」ときいたお子さんは、今すぐに身體を動かしてしたい氣持で一ばいなのですから、すぐ樂器で伴奏するなり歌つてやつたり出來るとよいのですが、何か他の事をしていたり等して仲々思うようにならない事が多く、「したし」という氣持をむだにすごさせてしまう事がしばしばあり

ます。

それに又悪い習慣とでもいふまじょうか、ちやんとお遊戯室に行つてするのでないとお遊戯ではないような感じがし、お子さんの方でも、そうするものと思ひ込んでゐるために其所がふさがつてゐる場合など、保育室ではうまく興にのらない事が多いのです。

お遊戯室を使うのは勿論よいのですが、餘り型にはまりすぎで、或るきまつた場所でないと落着いて充分に出來ない、というのは面白くないので、近頃は場所にこだわらない、というために保育室もなるべく活動的にし、又庭でも歌の伴う遊び的なものを多くとり入れたり、手があつて屋上とか本校の方の廣い運動場にゆける時には、笛とかハーモニカ等を持つてゆき、變つた環境のところでも何時もと違つた音色によつてやつてみますと、又違つた樂しい氣分でやることが出來ます。

その上、野原にいつたりしますと、葉つば、花、石など自然の色々のものを相手としてよく遊びます。特にバツタ等動物になると夢中です。そこで創作の第一歩ともいえる自然物の模倣をして面白く遊ぶことが出来ます。

或る秋の日運動に行つたとき、自發的なお子さんはそれぞれ好きなことをして遊んでいる時、先生のまわりをはなれない何人かの人達に「ばつたになつてみない」とさそいかけてみました。案の定、皆ピョン／＼と其の場ではね出しました。暫くお互にはねてふざけたりしていましたが、餘り變化がなく面白くないので段々にする人が少くなつてきました。

草原ですから都合のよいことにいくらでも本物がいます。

「あら、あのばつたあんなに遠くまでとんでいつた。こゝのはあるいている」だの色々と観察し話し合つたりして後、もう一度してみますと、今度は羽を使つてとぶのや、歩くのや、ボンと長い足を使つてとぶの等色々様々、時には私や友達の間の方につかまつたりして「おんぶしているの」——

そこまですると大進歩です。何時の間にか他の事をしていた人達も集まつてきて、それから蝶々になる者、とんぼになる者、花、つかまえる人、木、と色々に変つてき、しばらく各自が獨創的に動きまわります。

何時もの事ながら、特にこういうときは、適當な音楽をさつとつけてあげられたらもつと／＼たのしくやれるでしょうと思わずにはいられません。

○ 主題『山のぼり』

さて保育再教育講習の時に皆さんに御覽いたゞいた『山のぼり』ですが、何時もしているお遊戯が、何となく知つているものゝ展覽會といつた感じがしますので『山のぼり』という一つの主題をこしらえて、其の中に既習のもの、前記のバツタ遊びのような自由表現のもの、リズム遊び等を入れてみました。

第一日目

山にのぼる事を話し、持ちものも各自好きなものを持つことにし、前から二人づつの相手をきめて一列の圓をつくりました。段々と家にさそいにゆくところからはじめます。圓心にむきしやがみ音に合はせて拍手しています。先頭になりたい組から、大體八時間位でゆけるところの組の前について呼びかける動作（おじぎでも手まねぎでも自由）をする。さそわれた組は、其の組のあとについて順々に皆をさそいます。

さそい終つたら、さあ汽車にのりこみましよう「汽車／＼早いな」で山に向います。誰か男のお子さんに笛をかして車掌さんになつてもらい、笛の合圖で出發します。そして動作が終つて止まると同時に、どこでも好きなところの名前を云うことにしておきます。大抵は「いなか」というのですが、此の日は「日光」といつたので實に山のぼりにふさわしい感じ

がしました。

いよ／＼山にかゝります。歌をうたつて歩いたり、ピアノに合はせ大きい音、小さい音の區別をつけたり、アクセントのある音を強くふみつけたり、暫く變化をつけて歩きます。坂道にかゝります。「とても高いのよ」というだけで歩き方も音を倍にとつて實に感じを出してくれます。

もうそろ／＼小鳥の聲も、木々のさゝやきもきこえてきます。うです。「小鳥のおはなし」「もみぢ」「木の葉」「松ぼっくり」等ふさわしいものをいれました。

當日は何といつても普段と變つていたのでお子さんも勝手が違い、かえつておとなしくなつてしまつた方もあつたかわりに、大部分が落着かず、どうしたらよいのか分らないようにさわ／＼してしまいましたので、ピアノからはなれ「一寸おやすみしてゆきましょう」ということにして、或るお話しの内容をかえて「三郎ちゃんとおバツタ」という作り話をしました。その間に幾分落着いた様子なので又出發しやつと山の上につきました。

「山は高いので方々が見えますけれど、とび上るともつと遠くまで見えるのよ」と皆で合はせてとび上つてみました。一、二、は豫備音の動作、三、で膝をうんと曲げてとび上る。四はおやすみ、たゞこれだけの事が仲々出来ないのので皆大騒ぎでした。とび上つた後にきいてみますと、海がみえたり、家、木、空、等様々です、第一日目はこゝまでで、明日の豫定を少し話し合つて終りにしました。

第二日目

前日にひきつゞき今日は山の上の遊園地で遊ぶことにしました。

「山のみなさん」「鬼ごっこ」をしたり「ギョコンバツタン」「ブランコ」にのつたりして後、昨日のお話しの中で海が見えたことにちなんで「おふね」「貝拾ひ」「ポートルース」をして遊びました。

「貝拾ひ」はお子さんの大變好むもので、各自思い／＼に波になつたり、拾う人になつたり何度でもあきることなくやります。「ポートルース」は年長組になつてから「いや」という事を耳にするやうになりました。腰が固定して上體だけの動作なので、しかも競争の形になるので、何度もする事はつかれるのでしよう。けれど審判官になるうれしさ等でお子さんの好むものゝ一つです。

次に「こころ」「花いちもんめ」「どなたの細道」などいわゆる遊び的なものをして後、前にあげた「野原での遊び(自由表現)」をして時間の都合で山をおりるひまもなく遊びを中心にした第二日目を終りました。

スキップ

二日共お遊戯のあとスキップに相當時間をかけて一人づつやりました。

お子さんの大部分が「お遊戯／＼」と騒ぐのは、此のスキ

アップを早くしたいということが大變含まれているのです。特に男のお子さんになますと、しおらしく動活することなど少して軽くさく感じるようになってきています。そういう子など *お隣様 II メキメキ*、なのです。

腰掛けている前の方から順々に、其の子の持つテンポに合はせて伴奏しながらやつてゆきます（この合はせてあげる事が大切なので無視して勝手にひいたのでは伴奏してあげる意味がありません、それから形をなおしてあげる事は別として、餘り重そうな方、樂に出来ない方などには少しはずんだ曲をひいてあげる事もよいようです）そうしますと一廻りでもめる方、二回も三回もつゞけてする方等々です。する方は皆の見ている前で自分だけするのですから大得意です。しかしその反面全部の人のする間見ていることは退屈な事にちがいありませんので、その間各人について一寸した批評を云つて見る事に注意をひきつけ整つた形に對する認識を深めるようにしております。

又一人々々のから、二人組んだり、多くて四五人位まで組むようになり、組んだ事によるバランスのとりに方、それが工夫してゆくようになります。二人組が上手に出来るようになったら簡単な動作を入れてやつたり、二人が反對に出發し合つた所で互に右手をとり合つてまはつたり色々變化をつかさせることも出来ます。

自分の小さい時をふりかえつてみて、何時出来るようになったのかも覚えていないスキップ、ほんの簡単な動作としか思

つていなかつたスキップに對する考が、子供に接するようになって此の二年近くの間にすつかりと變つてきたことを今更のように感じます。

入園したときから出来るお子さんは別として、出来ない方について經驗したところによりますと、その子たちはこれが出來ないばかりに、樂しいはずのお遊戯がきらいになつてしまします。そして子供心にもあせつたり、おじてしまつたり行動のすべてが活氣がなく消極的に感じられます。私は折あるごとに手をとり一緒に引張つてあげリズムを身體に感じさせるようにつとめます。あせらずにこうしてきますと、出来るようになる時機が來たのか、それとも體得したのか、何時とはなしに出來てきます。そうなりますと其の子の喜びは勿論、お友達同志でも大願ぎです。

それからそのお子さんの各方面への進歩は著るしくなります。口をきかなかつた方が、よくお話するようになってきたり、實にはつきりしてきます。

スキップの持つリズムにより、その子の中にねむる本當のものが呼びさまされたという感じをいつも受けます。

目下私のところには、二人のまだスキップの出來ないお子さんがあります。その人たちが出来るようになつたときの變化が今からのしみです。こんなことから私は一人づつするスキップに重點をおいて、たのしみながらしております。